

令和7年度 年間授業計画

教科：家庭科 科目：家庭総合 単位数：2

対象学年：第3学年

使用教材	教科書：	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）
	補助教材：	最新 生活ハンドブック 資料&成分表（第一学習社）

教科（ 家庭科 ）の目標

【知識及び技能】	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目（ 家庭総合 ）の目標

【知識及び技能】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
1 学 期	単元	食生活の科学と文化	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	知識及び技能	指導事項	知識・技能					
		・食の安全と衛生など、食と人との関わりについて理解する。 ・食品衛生について科学的に理解する。 ・おいしさの構成要素について科学的に理解する。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。	食品の選択と安全、調理の基礎	・食の安全と衛生など、食と人との関わりについて理解している。 ・食品衛生について科学的に理解している。 ・おいしさの構成要素について科学的に理解している。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。				
	思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現					
		・食品衛生及び調理について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	教科書・副教材等	・食品衛生及び調理について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	○	○	○	12
	学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度					
	・食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践する態度を育てる。	課題提出、調べ学習	・食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。					
1 学 期	単元	食生活の科学と文化	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	知識及び技能	指導事項	知識・技能					
		・食生活を取り巻く課題など、食と人との関わりについて理解する。 ・食品の栄養的特質について理解する。 ・食品の調理上の性質について科学的に理解する。	食生活の課題、食事と栄養・食品、調理実習	・食生活を取り巻く課題など、食と人との関わりについて理解している。 ・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について科学的に理解している。				
	思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現					
		・健康に配慮した自己の食事について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	教科書・副教材等	・健康に配慮した自己の食事について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	○	○	○	16
	学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度					
	・食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践する態度を育てる。	課題提出、調べ学習	・食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。					
定期考査（期末考査）/返却と解説				○	○		2	

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数	
2 学 期	単元	食生活の科学と文化	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	知識及び技能	指導事項	知識・技能					
		・日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解する。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、健康や環境に配慮した食生活について理解する。 ・自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・食品の調理上の性質について科学的に理解する。	食生活の文化と知恵、生涯の健康を見通した食事計画、これからの食生活、調理実習	・日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・食品の調理上の性質について科学的に理解している。				
	思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現					
		・日本の食文化の継承・創造について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。 ・家族や各ライフステージの食事について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	教科書・副教材等	・日本の食文化の継承・創造について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 ・家族や各ライフステージの食事について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	○	○	○	4
	学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度					
	・食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践する態度を育てる。	課題提出、調べ学習	・食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。					
単元	子どもの関わりと保育・福祉	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。					
知識及び技能	指導事項	知識・技能						
	・命に対する責任や、命の誕生、乳幼児期の心身の発達と生活について理解する。 ・親の役割と保育について理解する。 ・子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解する。	命を育む、子どもの育つ力、子どもと関わる、子どもとの触れ合い、これからの保育環境	・命に対する責任や、命の誕生、乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ・親の役割と保育について理解している。 ・子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解している。					
思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現						
	・母体の健康管理、乳幼児の身体や心の発達について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。 ・子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	教科書・副教材等	・母体の健康管理、乳幼児の身体や心の発達について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 ・子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	○	○	○	14	
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度						
	・子どもの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践する態度を育てる。	課題提出、調べ学習	・子どもの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。					
単元	高齢者の関わりと福祉	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。					
知識及び技能	指導事項	知識・技能						
	・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について理解する。 ・高齢期の心身の特徴、自立生活の支援や介護について理解する。 ・高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付ける。 ・高齢者福祉について理解する。	超高齢・大衆長寿社会、高齢期の心身の特徴、高齢者の自立、これからの超高齢社会	・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。 ・高齢期の心身の特徴、自立生活の支援や介護について理解を深めている。 ・高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けている。 ・高齢者福祉について理解している。					
思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現						
	・高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	教科書・副教材等	・高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	○	○	○	10	
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度						
	・高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践する態度を育てる。	課題提出、調べ学習	・高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。					
単元	共生社会と福祉	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。					
知識及び技能	指導事項	知識・技能						
	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深める。	生活と福祉、社会保障の考え方、共に生きる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めている。					
思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現						
	・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、様々な人々との関わり方について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	教科書・副教材等	・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、様々な人々との関わり方について問題を見いだして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	○	○	○	4	
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度						
	・共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践する態度を育てる。	課題提出、調べ学習	・共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。					
定期考査（期末考査）/返却と解説				○	○		2	

令和7年度 年間授業計画 科目（ 家庭総合 ）

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
3 学 期	単元	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。			
	知識及び技能	指導事項	知識・技能				
	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。				
	思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現				
	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	教科書・副教材等	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	○	○	○	4
	学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度				
・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践する態度を育てる。	課題提出、調べ学習	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。					
定期考査（期末考査）/返却と解説			○	○		2	
合計							
70							